

平成27年度第2回長野県信濃美術館協議会議事録

○開催日時 平成27年11月16日（月）午後1時30分～午後3時30分

○場 所 長野県信濃美術館 講堂

○出席者

【委員】

石川利江委員、 内田道樹委員、 小野文子委員、 草薙奈津子委員
小坂壮太郎委員、 小山利枝子委員、 西澤 剛委員

【（一財）長野県文化振興事業団】

常務理事 松本有司

【長野県県民文化部】

県民文化参事兼文化政策課長 阿部精一 企画幹兼課長補佐 竹村浩一郎
担当係長 高山 茂 主査 霜田英子

【長野県信濃美術館】

館長 橋本光明 副館長 中部俊彦 総務課長 寺沢政之
学芸係長 伊藤羊子 主任学芸員 木内真由美 主任学芸員 渡邊美保
主任 和田 貢

1 開 会

○寺沢総務課長

それでは、ただいまから今年度、第2回目の長野県信濃美術館協議会を開催いたします。

私は総務課長の寺沢政之と申しますが、本日の進行をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

初めに、長野県信濃美術館、館長の橋本光明からごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

○橋本館長

皆様こんにちは。11月の中旬にしては大変温かく穏やかな日となりましたが、委員の皆様には本当にご多用の中、ご都合をつけてご出席いただきましてありがとうございます。

本年度は今日、内田寺務総長さんいらっしゃっておりますが、善光寺の御開帳の年でありまして、そことの関連づけを行い常設展や企画展を行いました。それと、ちょうど東山魁夷館も25周年記念ということで、全く大きな行事と重なりまして、そこで善光寺門前フィールドワークショップということで、駅からこちらまで、善光寺さんのところまで約30店のお店に東山魁夷さんのリトグラフを飾っていただいて、お買い物をしたとき、ここに東山さんの作品があるんですねと、そんな地域との連携もいたしました。

それから、いつもいつもご支援いただいています石川委員様には本当に感謝申し上げますが、地域との連携ということでご支援いただきながら、そのほかにもいろいろな活動を展開してきました。

6月にはブラジル出身のチェロ奏者のアントニオ・メネセスさんをお呼びいたしまして、東山魁夷の作品の前で演奏会ギャラリーコンサートを行いました。これも25周年記念の一環でございます。

もう一つ、香川県に東山魁夷さんのせとうち美術館がございます。そのせとうち美術館も今年で10周年ということで、せとうち美術館と連携し合ひまして、夏には日展三山展を開催いた

しました。オープニング、内覧会でしたけれども、杉山家、高山家のご親族を初め、東山魁夷館をご設計された谷口氏をお招きしまして、ここの美術館、それから今日来ていらっしゃる事業団、それから県の皆様と一体となって東山魁夷25周年を記念し、それなりの行事を実施してまいりました。

それから御嶽山の噴火災害があつて、もう1年ちょっとたちましたけれども、私たちが何かできないかと思ひまして、御嶽山山麓の公民館や資料館、そういった12の施設とタイアップしまして、今日いらっしゃっています小坂社長様の信濃毎日新聞社様との主催で、版画展を開催しております、現在も。できるだけ、ほんの些細なことですが、心の面で、少しでもそういったご援助ができればと、そう思つて現在行っております。

それから先日終了いたしました横井弘三展、これも完全な地域密着型の展覧会でありまして、こういったことを今年多く実施しながら、これからも県民の皆様との距離感というものを縮めながら、多くの県民の方が親しみやすく、気楽にこの美術館にお立ち寄りいただけるようにこれからも努めてまいりたいと思ひます。

今日の協議会は5月に行いましたものと同様の進行で前半は私たちの、またこの整備計画の日程と合わせてこの協議会を開きましたので、私たちにとっては事業報告といつても中途半端な感じなんです、事業報告をさせていただき、後半に県が進めております整備の内容について委員の皆様方からご意見をちょうだいしたいと思つております。よろしくお願ひいたします。

○寺沢総務課長

それでは本日の委員さんの出欠につきましてご報告を申し上げます。

所用のため、小根山委員さんと牧委員さんが欠席されております。また本日、高松委員さんから連絡がございまして、急用のため欠席との連絡を受けておりますので、ご報告いたします。

3 議 事

○寺沢総務課長

それでは議事に入りたいと思ひますが、その前に、本日お配りした資料のご確認をお願いいたします。

まず1枚物ですけれども、協議会次第、それから出席者名簿、配席図、それから左上にホッチキスでとめてあります平成27年度第2回長野県信濃美術館協議会説明資料、A3で横長のものであります。それからクリップでとめてあります、表には第3回長野県信濃美術館整備検討委員会次第と書いてあります資料でございます。よろしいでしょうか。

それでは、議事の進行を橋本館長、お願ひいたします。

(1) 平成27年度事業実施状況について

○橋本館長

それでは、議事を進めさせていただきます。

最初に議題3の(1)平成27年度事業実施状況についてを議題とさせていただきます。副館長から説明申し上げます。

○中部副館長

平成27年度第2回長野県信濃美術館協議会説明資料を説明

○橋本館長

ただいまの説明でご質問、時間がございませんので、ご意見を取り混ぜてお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。では小坂委員、お願いいたします。

○小坂委員

過去5年間の東山魁夷館と本館の入館者数の推移を見ていて、ほとんどの年度で東山魁夷館が上回っていて、改めて東山作品の集客力ということに驚くわけですが。平成25年度だけ本館のほうが上回っておりますが、これはどの企画展が功を奏したということでしょうか。

○橋本館長

私が答えてもいいんですけれども、いいですか。4月に開催しました・・・25年度ですか、25年度は。

○中部副館長

25年度の企画展の一番最初に書いてあります「印象派の巨匠たちとピカソ」が、これが39,000人ほど入場者数がございました。そういうことで、非常に多くということがございます。

今年の「いのり」のかたち」は、2枚目でございますように、33,000人ということございましたので、このピカソが39,000人というようなことで、たくさんのお客さんに入っていたという状況でございます。

○橋本館長

よろしいでしょうか。

○小坂委員

はい、結構です。あともう一つだけ、ちょっと全然違う質問ですが、企画展の中で、(共催展)というのがありますが、これは、ほかの企画展との違いは何でしょうか。

○伊藤学芸係長

お答えさせていただきます。年間2回、例えばこの(企画展)というこのA3の紙でいきますと「いのり」のかたち」展、企画展1のものと④の「描かれた女たち」はマスコミの方に収支を持っていただきまして、県からは負担金という形で出資をしたお金をもとに展覧会をやっていたということ。

収益もしくは、逆にいうと、その負担のもの全てをマスコミ様のほうでお願いしている展覧会を私どもでは年2回持っております、それを共催展というふうには呼ばせていただいております。

○小坂委員

わかりました。ありがとうございます。

○橋本館長

ほかにごございますでしょうか。内田委員に私からお願いを。

善光寺の御開帳のときにお世話になりました。多分、お忙しくて展覧会はいらっしゃらなかったと思いますけれども、何かご感想でもお願いできればと思います。

○内田委員

失礼いたします。御開帳開催中は、うちへもお昼のお客様、お泊りのお客様、大変多かった

んですが、特に個人の方々に聞かれるのは「東山魁夷館はどちらでしょうか」と聞かれるんですね。誰も信濃美術館はどちらですかとお聞きにならないので、東山魁夷館のメジャーさはすごいものだなと思いました。

ですが、この「“いのり”のかたち」展ですか、開催中にこれはうちにもポスターを張りまして県も置いておりましたが、かなりの人数に行っていただいたとっております。お世話になり、ありがとうございました。

○橋本館長

ありがとうございました。やはり東山魁夷館のほうがかなり名前では全国的に広まっているということが事実ですし、また、私たちもそれを生かしていかなければいけないとっております。では小山委員、お願いします。

○小山委員

東山魁夷館の常設展の中のイベントなのですが、対話型ギャラリートークというのがございまして、その都度、テーマに分けて2～3回、4回ぐらいですか、行われているようなのですが、意外と出席者数というのは結構少ないですし、これはその時々になんかランダムにいらした方に、その館内放送か何かで呼びかけて参加していただくみたいな形でやっていたらいいということですか。

○伊藤学芸係長

本当に先生の今のお話のような形で、定期的にということで開催はしておりますが、実質的にはそのときに来ていらっしゃるお客様が聞いてくださるといって感じで、中には非常に限定ではありますが、楽しみに来ていただいて、それを目指して、年間パスポートを買っていただいているお客様などには年間のスケジュールなんかが行ったりご案内しますので、そういう方も、まだ大変少数ですけども、いらっしゃいます。

○小山委員

この、あえて対話型ギャラリートークというふうに書いてあるということは一方的に解説するのではなくて、ご感想などを聞きながら何かしているみたいな、そういうことなんですか。

○伊藤学芸係長

そのとおりです。

○小山委員

わかりました。

○橋本館長

小野委員、お願いします。

○小野委員

展覧会拝見しますと、ちょっとこの（共催展）という書き方は間違っていますので。というのは、その主催、共催が表の中で示されていて、ここで使っている共催という言葉が統一されていないといけないので、こういう資料の作り方というのは、毎回申しますけれども、やはり仕事できていないことのあらわれだと思います。

そして企画展5ですね、この表のつくり方ですけれども、一番最後になっているのは東山魁夷館だから5に持ってきているのかもしれませんが、通常は開催順、スタート、同時スタートのものもあると思うんですけれども、ちゃんとスタートしている順にきちんと並べていただかないと何をやっているかわからないというのは、このドラッカーと東山魁夷のは確か重なっていますよね。それで関連性のあるというか、それなりに日本美術ということでやったんだと思いますけれども、その比較ができないんです、こういう注意散漫な、プロとは思えないものを、もうはっきり申しますけれども、毎回のことではっきり申しますが、いまだになさっているというのは非常にもう、もうこれ以上は申しません。もう言う価値もないほど、もうひどいと思っています。

もう一つ、重要な質問なんですけれども、これ主催、共催のところ、ほとんどテレビ信州であるとか信濃毎日新聞社であるとか、マスコミさんが入ったものを巡回させて回しているものをいただいているというような現状だと思うんですが。

5番のところ。これはこの美術館の企画ということで考えていてよろしいと思うんですが、この展覧会についての、プロのちゃんときちんとしたレビュー、展覧会レビューというようなものはされているのでしょうか。そういうのもちゃんと情報を集めて、自分たちの展覧会がどういうふう評価されたということはちゃんと把握されているのでしょうか。

○橋本館長

最初の括弧書きの共催展は、小野委員からご指摘のとおりだと思います。矛盾があるし、これは早速直さないといけないと思います。

それから今度はあらし方です。確かに、直接見た感じではドラッカーと日展三山がほぼ同時期に開催しておりますが、やはりその相乗効果というのをお考えになって、今、小野委員はご指摘されたと思います。そのとおりだと思います。この示し方も工夫していきたいと思ます。

3点目については、補足をお願いします。

○伊藤学芸係長

今、展覧会評が集まっているかというご指摘ですけれども、でき得る限りでございますけれども、私どものところにご取材にいただいたものはもちろん、あとはいろいろ展覧会のご案内等々の、いろいろなマスコミさんの雑誌等々のものは、できる限りでございますが、集めているつもりでございます。

○小野委員

すみません、私の意図はそういうことではなくて、もちろん宣伝する側がちゃんと宣伝をし、取材に来れば、美術雑誌であろうが新聞であろうが、自分のところに欄があれば、そこに展覧会の情報は入れるわけです。それは当たり前なことなんですけれども、そんなことが知りたいのではなくて、ちゃんと学術的、あるいは信濃美術館らしさが出ているとか、そういうきちんとした、ここの美術館ならではの展覧会評とか、そういったことがどこかに出たのかということです。

ご存じ、その出ているのであれば、どういったものだったのか、誰がどういうふうレビューしたのか教えてください。

○伊藤学芸係長

今、先生にご指摘いただいたような内容のものは出しているということは、多分、ないと思います。

○小野委員

それではきちんと、今まで私を初め、ほかの先生方も学芸員の質ということはもう毎回毎回、議論されているわけです。ご指摘があるわけです。

ですから、レビューされないような美術展、そういったものしかできないことについて、よく反省なさってください。

○伊藤学芸係長

ご指摘、ありがとうございます。一つだけ、ちょっと事実関係だけご報告させていただきますが。

今、ここに（共催展）と書いてあるものも巡回ではないかというご指摘でございましたが、今回、共同開催という形で企画展1、企画展2、企画展3、そして企画展5の4点は私どもも一緒に参画させていただいて、図録から、図録の編集、執筆したものですので、今年度ここに書いてございます5つのうち、④の企画展4という「描かれた女」を除きましたは、自主の展覧会ということでご報告させていただきます。

○橋本館長

ご指摘ありがとうございます。何度も何度も言われながらも変えていないんじゃないかという問題点、これは本質的なものだと思いますので、改めて深く反省しながら変えていきたいと思えます。

○石川委員

先ほど館長さんからもお話がございましたけれども、御開帳期間のときに、まちじゅう魁夷でしたか、町の中に30点の東山魁夷の作品がいろいろなところに展示されて、そのときに作品のガイドボランティアを募集されて、私どもも1点お借りしたので、そこにツアーでガイドの方がいらしたりしていただきました。

あのガイドの方たちは、今後も何らかの形で信濃美術館と関係性を持てるような形になっていくんでしょうか。

○伊藤学芸係長

ありがとうございます。石川委員のお話のように、そういう方も含めて一回一回募集するという形になりますので、その後、今回はそうした普及に関する部門は今回（2）の議題のほうを重点的に、時間の配分もございましてしていただくということと、あくまでも年度途中の開催でございますので、普及のご報告を全くここに載せていないのですが、その後7月、8月も同じように「みんなでカイイ！」ということでさせていただいておりますし、また、今は木曾で、先ほどの館長の話のようにしておりましたり、またこれから、木の葉の展覧会というものも、またこの地域でさせていただきますので、年間を通しまして参加していただいたサポーターの方をお願いするのと同時に、また広く毎回毎回、広報をしているという形でございます。

○小山委員

小野委員から、今、レビューはないのかというお話がございました。私もそれについては思うところがございます。今回の表にある企画展は、めずらしく全部拝見させていただいたんですね。今までは、なかなか全部拝見する機会がなかったのですが、それぞれの展覧会にいろいろと感想を持ちました。大変すばらしい展覧会もあったと思えますし、その中で、でもここは

惜しいなとか、いろいろ思うこともございました。多分いろいろな方がごらんになって、いろいろな立場でいろいろな感想をお持ちだと思うんですね。そういう意味では、美術に造詣の深い、何らかの美術館と関係のある方にレビューを書いていただくよう事も必要と思います。せっかく良い展覧会があっても、それが何らかの形で他者の目として残されないわけですし、また、良いところがあっても、反面こういうところはちょっと残念という部分もいろいろあると思います。私もちょっと思うところがあったんですけども。反面、そういった指摘も、確かにきちんと残されていくことによって、かなりなエネルギーを使って一つ一つ企画された展覧会の、その実績として、客観的なレビューを何人かの方をお願いして残していくということは、今後必要なのではないかなというふうに思います。以上です。

○橋本館長

ありがとうございます。では、草薙委員、お願いいたします。

○草薙委員

先ほど主催と共催というような話、出ていましたけれども、共催というのは、共同主催という意味なんですね。ですから主催なんです。だからこれに主催、共催と別個のもののように書いているのは非常におかしなことということは確かなことです。

主催は長野県と長野県信濃美術館、あるいはその新聞社となっていますよね。これもっともなことなんですけれども。長野県教育委員会も、これは長野県の中に入るわけですよね。

○伊藤学芸係長

別の組織ということになりますので・・・

○草薙委員

別の組織なんですか。

○伊藤学芸係長

はい、別に共催のお願いを出すという形で今しております。

○草薙委員

ああ、そうですか。そうすると、長野県、長野県信濃美術館、長野県教育委員会、信濃毎日新聞社、これが主催になるわけですよ。それでいいんです、それで。

で、もしも、それじゃおかしんだということでしたらば、その共催という言葉ではなくて、例えば協力とか協賛とか、何かほかの言葉を探し出さないといけないということです。それはある程度、決めておかれるといいなと思います。

○伊藤学芸係長

ありがとうございます。

○草薙委員

それから、いろいろな展覧会なさいまして、これは美術館の学芸員の実力といったものが本当にうまく発揮されるか、あるいは発揮されないかというようなことは、別にここの美術館だけじゃなくて、どこの美術館でも同じことなんですけれども、なかなか難しいことであって、ではいろいろな美術館がいろいろなことをして、それが即、どなたかの評価につながっているとか、そういったことはほとんどないと言っていると思います。

ただ、やっぱり学芸員がしっかりした美術館というのは、展覧会をしたときのカタログの原稿が非常にしっかりしているとか、それからもちろん、記名入りで書いています。よく、公立の美術館は記名入りじゃないほうを喜ぶということがありますよね。これは美術館側が記名入りにしたくても、役所のほうが嫌がる。役所というのは、どうも個人の名前が出ることを非常に嫌がる。でも、美術館のカタログ等に関しては、これはきちんと責任を持つという意味でも記名するというはもう当然だと思いますし、そうやって少しずつ、信濃美術館には大変いい学芸員がいるというように思われるということも大切なことじゃないかと思います。

でも、その一方で、どこの美術館でも有名な学芸員というのはいるんですよ。そうしますと、その学芸員というのは内部では非常に評判が悪かったりするんですよ。これはもうほとんどがそうなんです。それはどうしてかというと、外に名前が出る仕事だと一生懸命するけれども、美術館の中の地味な仕事に対しては、なかなか協力的でないということもありますので。ですから、いろいろなことで気をつけなければいけないと思いますけれども。

でもきちんと学芸員の名前を書いて、そしてその人が責任を持って文章を発表するとか、あるいは展覧会を発表するというはとても大切であらうと思います。

○橋本館長

大変貴重なご意見、ありがとうございます。早速この最初にご指摘された主催、共催などを、慣例、慣行で今までやってきましたけれども、改めてもう一回整理し直したいと思います。

それから、先ほどの図録等のその個人名というのは、まさに今、評価の時代で、それから実績とか業績とか、そういったものが非常に価値づけられる時代ですので、やはり公的機関といえども個人が執筆されたものは尊重しなければいけないと、私自身、思っております。

最後のところは本当に、組織を運営する上で、やはり人なんだけれども、その人の育成、これは草薙委員からいつもいつも言われているんです。やっぱり学芸員を育てないといけない、展覧会を通して、そういったことを肝に銘じてこれからも努力していきたいと思っております。ありがとうございます。

○石川委員

先ほど小野委員、また小山委員から出た、そのレビューとか評の話ですけれども。美術展だけじゃなくて、演劇でも音楽でも地方都市で行われたものが評論の対象になって、全国レベルで出るということはほとんどないといってもいいと思うんですね。それは私、ずっと問題だと実は思っていました。

今、本当にネットのあれなので、この間も県の文化課のほうにもちょっとそういうお話をしたんですが、各、公立だけじゃなくてですけれども、いろいろな美術館、またはホールなどの講演の予定は出ているんですが、そこにまた評も出していく。そして今の時代ですから、いろいろな人の書き込みもできるようにするとか、いろいろな方法があると思いますけれども。まあ、ある程度きちんとした評が、あるレベル以上の活動に対してそういう評が出て行くような状況を長野県がつくれれば、やはり文化状況も少し変わるんじゃないかと思っておりますので。本当は信毎さんでやっていただきたいですが、なかなか、その全部のいろいろなことはできないと思っておりますので、そういうネットなりで、そういうものもぜひ期待したいと思っております。以上です。

○橋本館長

今後のために示唆のあるご意見、ありがとうございます。小野委員、お願いします。

○小野委員

すみません、先ほどの意図は何かと申しますと、要するに、今度の次の議題にかかわってきますけれども、レビューされていない、東山魁夷館25周年記念と銘打っておきながら、レビューされないというのはどういうことなのかということを考えていただきたいわけです。将来、東山、つまり東山魁夷を売り物にして新しい美術館をつくらうと思っても、これが現状ですよということです。

三山展、私、これ日本美術ご専門の方と一緒にこの展覧会、実は拝見したんですが、まあ今ごろ三山かという、そういうことなんです。ですから、研究というか時代の流れというか、そういったことを、もう既にもうみんながやっちゃって昔のことだよねということを今ここで、新しい何か知見があつての東山魁夷館25周年記念ということで、これならわかりますが、同じことを、古びたことをまた持ち出してきて、貸してもらえる作品を借りてきてやろうじゃないかというレベルのものであれば、もうやらないほうがいいですし、東山魁夷先生はすばらしかった、すばらしいんでしょうけれども、25周年記念の展覧会がレビューされないという、それが事実だと思います。

今、フェイスブックというようなお話、レビューのことですけれども。私が知っている限りでは、こうやってマスコミさんがついている展覧会というのはご自身たちが、マスコミのほうでも、美術館のほうでも必ずツイッターかフェイスブックを立ち上げます、その展覧会のために。そして、そのツイッターのコメント、それからフェイスブックを見ながら開催期間中に戦略、宣伝を打つ、戦略をどんどん変えていきます。こっちに向いているということです。

なので、お客さんを本当に入りたいのであれば、そういったこともやはり考えていかれるといいと思います。美術館そのものが主体的にやっているところもありますし、やっぱりお客さんの数じゃないということもあるかもしれませんが、見てもらわないことにはもう何も始まらないんです。それが美術館だと思います。以上です。

○橋本館長

ありがとうございます。それではもう2時を回ってしまいましたので、恐縮ですけれども次の議題に移らせていただきます。

ありがとうございます。いつもいつもご意見をいただきながら、私たちさらに猛省して頑張っていきたいと思います。

(2) 長野県信濃美術館の整備検討について

○橋本館長

それでは3の(2)の長野県信濃美術館の整備検討についてですが。

本来、私どもは指定管理者のもとで働いておりますので、この新しい美術館については直接の任務ではございません。ただ、前回も私、申し上げましたように、先ほど小山委員がもう全ての展覧会ごらんになったというご意見のように、この整備検討委員会のメンバーとはまた違って、委員の皆様方はよりよくうちの美術館を知っていらっしゃると思いますので、貴重なご意見をいただくと、またそれが何らかの形で反映されるのではないかと。

館長諮問の会議でございますので、どのくらいそれが県に伝わっていくか、また県はここにいらっしゃるから、それをお聞きして生かしていくかと、これは私個人の問題ではないんですが、県として生かしていければありがたいと、そう思いながら議題とさせていただきます。それでは、県のほうにお願いします。

○阿部県民文化参事兼文化政策課長

○高山担当係長

第3回長野県信濃美術館整備検討委員会資料を説明

○橋本館長

ありがとうございました。3時半に終了ということは、おおよそもう40分ぐらいの時間となっております。その中で、どのくらいご意見が出尽くされるか、ちょっと心配ですが、よろしく願いいたします。

それでは、もう質問も含めましてご意見等よろしく願いいたします。草薙委員、お願いいたします。

○草薙委員

まず、今、全国にいろいろな美術館があるんですけども、著名な建築家がした美術館であればあるほど評判が悪いということを、心にとめておく必要があると思います。実際に非常に使いづらい。それはその建築家が、いろいろな美術品が展示される場所だということを考えないで、建物そのものを自分の作品にしてしまうので、結果的にちっともいいものにならない。

それから、私は個人的には、建築家というのはどうも足が強いのか、やたら歩かせたり、やたら広い。それから高所恐怖症でないのか、もう床から天井までガラス張りというようなものがありまして、やっぱり疑問に思います。美術館というのは、何といたってもお年寄りが多いんです。ですから、あまり歩かせるというようなことにしないようにすることはすごく大切だと思います。

それからなんですけれども、これで見ますと善光寺さんからずっとつながってくるという、それ私はとてもいいことだと思いますけれども、もう少し善光寺東庭園ですか、寄りのほうに持っていく方が良いのではないのでしょうか。この善光寺東庭園というのは割りと人が少ないところじゃないかと思うんです、今現在。これが道を隔てているものですから、ますますもって今、美術館の存在といったものがうすくなってしまいます。やっぱり近くにあるということはずいぶん大切なことであって、少しでも善光寺さんの東庭園に近いような形をとる。例えば真ん中に道がありますけれども、それは車は地下を通るようにするか、いろいろなことが考えられるわけですが、そういうふうにするべきじゃないかと思えます。

それからファサードというのは今ある、あの階段を上がっていくあれを言うんですか、あれがそんなに貴重なものだったんですか、私、全然知らなかったんですけども。私は別にそこまで考えるほど貴重なものなのかなと、残さなくてはいけないと考えるほど貴重なものなのかなと思って、それ非常に不思議に思いました。

それから広さとか、それからミュージアムショップとかいろいろなことなんですけれども。まず広さに関して、試算というのは、展示部門が常設展示室が1,000平米、企画展示室が1,500平米となっておりますよね。これは日本の美術館ではかなり大きいと思います。果たして、これだけ企画展示室1,500平米を持って、学芸員たちがそれだけの展覧会ができるかどうかだと思います。私のところは700平米です。ただ700平米の部屋が2つ並んでいますので、場合によっては2つ続ける、両方使うことができます。でも、これは私が来てから一度もしたことがありません。せいぜい、あと300平米ぐらい使って1,000平米ぐらいで展覧会をしたことは何度かありますけれども。

要するに、やはり日本の美術館の場合は所蔵品も少ないですし、よそからお借りしてこななければいけない、いろいろなことがあるので、やたら広い展示場にしないほうが、私はいいと思います。そのかわり収蔵部門、これは大きくしておく。よく裏は表の3倍必要といいますよね。それから教育普及というのはこれからどんどんどんどん盛んになっていくと思いますから、そのための施設等を充分考えるべきではないかと思えます。

それから、ショップを別々にしたらいいとか、学芸員を充実させなければいけないとか、い

ろいろ書いてあります。これは要するに人が必要になることなんです。ショップが1つだったら1人でよかったのが、2つになったら最低でも2人は必要になる。人員を増やすということ。これを長野県がしてくれればいいですよ。だけど、そんなこと絶対期待しないほうがいいと思います。人というのは本当に増やしてくれません。ですから、なるべく人を少なくして済むようにする。受付も東山魁夷と本館と別個にしないようにするとか、いかにしたら人が少なく済むかということを考えるべきだと思います。

それからなんですけれども、美術館をつくるときに、ここはもう既に館長さんとか学芸員が決まっているからいいんですけれども、よく館長とか学芸員が決まっていなくて、対応するのは役所の人たちですから、いってみれば素人ですよ。だ、ものですから、本当に建築家の言いなりになってしまう場合がとても多い。あるいは学芸員は決まっていますが、学芸員というのは下っ端ですから、偉い建築家の先生と直接お話できないということで、意見が伝わらない。建築家というのは本当に何も知りません。東山魁夷館をつくられた谷口さんが豊田市の美術館をつくったとき、あのとき豊田の学芸員が谷口さんと対等に話をしたから、比較的評判の良い美術館になったのだと思います。彼の話の聞きまじりけれども、例えばドア一つにしても、美術館のドアというのは大きい作品の出入りさせなければいけないから、普通、人間が通ればいいようなドアではいけないわけですよ。それが建築家はそういうことをわかっていない。そういうこと、全部細かく指摘していかなくてはならない。

そういう指摘できる人がいるかないかというのは、美術館がいい美術館になるか、ならないか、それ以外にいろいろなことがありますから。とにかく、やたら有名な建築家にさせないということと、それから美術館が、建築家は意外と美術館のことを知らないんだというようなことを十分心得て、美術館側が細かいところまで意見を言う。それから新しいので、とにかく大きい美術館にしたいという気持ちがおありだと思いますけれども、県立美術館ですから、大きくてもいいのかもしれませんが、長野というのはいろいろな美術館がいっぱいあるところですし、そんなにここが、もうお城のごとく大きくしようというふうには考えないほうがいいと思います。それだけちょっと言いたいと思います。

○橋本館長

草薙委員の経験豊富な、また現在の管理運営のお立場から大変貴重なご意見をたくさんいただきました。とりわけ、一番最初の建築家の問題は、つい先日「描かれたおんなたち展」のときに、日動画廊の長谷川副社長さんもおっしゃっていました。

そして、笠間（日動美術館）はどうなんですかと、聞きましたら、機能とか私たちの意見をとり入れてつくったから、とてもいいものになったと。おっしゃるとおり、勝手につくられたら大変なことになるから気をつけてくださいと、それ以外にも貴重な何項目にわたってのご意見は全てそうだと思います。

広さについては、やはりそれに見合った、また見合ったというのはイコールになってしまいますから、将来性を少し見込みながらの大きさというのも考えていかないといけない。そこに携わる学芸員の質と人の数も当然かわってきます。県として何かお答えできる場所があれば、お願いしたいと思うんですが。

○阿部県民文化政策課長

たくさんのご意見ありがとうございます。特に設計とかが大きな視点になるということを考えておまして、委員さんからも、今、最近もようやくほかの県でも美術館の建設が始まってまいりましたから、特にそういうところに行ったりして生の意見をよく聞いてくるようにというご指摘がございまして、今、そんなことも勉強しております。ありがとうございます。

○橋本館長

それでは、小坂委員、お願いいたします。

○小坂委員

今、草薙先生からも善光寺東庭園のお話ありましたが、ここは本当に、内田総長もいらっしゃる中で申しわけないんですけども、人も少なく、我々子どものころは内緒でよくザリガニを池でとる場所だったんですね。そういう意味で、この美術館のエリアと東庭園、一体的な開発をされるという方向性は非常にすばらしいことだと思います。

今はこの善光寺の側から城山公園を抜けて入っていく道が非常に見栄えも悪いし、歩いて入りにくいというところがありますので、ぜひ、この東庭園の東側にきれいな桜並木があります。ですから、それをとってしまうのはもったいないですけども、その間を通すような、上を通るようなことができないのかなというふうに思います。

それと、観光の観点から考えると、外から人を呼ぶためのネームバリューとしてこのエリアで何かといえば、善光寺と東山魁夷だと思うんですね。それで、このある場所が城山公園というのは、私も長野で育って、これ何の城の山なのか、いまだに知らないということなので、この際、もう善光寺公園でもいいんじゃないかというぐらい、大きなイメージチェンジをしていただきたいと思います。

それとファサードの話については、私もこれは建築史的に意味のあるものだとすれば、写真なり設計図なりできちんと記録を残して、ああいうものを残そうとすると、やっぱりどうしても補強だとか、維持費だとか、あと場所をとるとかということになるので、それはまた別のほうに振り向けていただきたいと思いますというふうに思います。とりあえず思いついたところで。

○橋本館長

公園の問題についてはいかがでしょうか、東側のところについてお願いいたします。内田委員、お願いいたします。

○内田委員

今まで何かおっしゃっておられましたけれども、東庭園というのは空白地帯なんですね。人の行き来が少ない非常に空白地帯で、こちらを利用していただくことは私もやぶさかではございません。

ただ、今から25年か30年ぐらい前ですが、私、東山先生にお会いして、なぜこちらに作品をお寄せになるんですかといったら、ここから見える善光寺の姿がいいんだよと言ったのをいまだに覚えております。ですから、道路が間にあって、また善光寺の庭園とここの噴水の公園というのは全く異質のものが一体化するということは、私も望ましいと思っております。

また任期が来年の3月で終了ということで、何というか、引き継ぎは私が責任を持ってやりますので、またよろしくお願いいたします。

○橋本館長

貴重なご意見ありがとうございました。またよろしくお願いいたします。

さっき草薙委員から教育普及が大事だと、西澤委員、最初の協議会でもちょうどご意見を聞くことができませんでしたから、教育普及の面からでもいいですし、よろしくお願いいたします。

○西澤委員

いろいろ先生方からお話を聞いていると、ああ美術館というのはこういうふうにやってでき

上がっていくのかということが、ここに来てようやくわかるなというふうに思います。一般市民という立場でも期待しているのは、この中の、作品がどんなものが来るのかなということが非常に興味がありますね。そういうところができ上がっていくという過程も広報しながら、関心を高めていくということが必要なというふうに思いました。

子どもたちの立場でいくと、いろいろなジャンルが必要になってくるのではないかなと思います。やはりインパクトとして強いのは、あの金沢にある美術館のインパクトは現代美術が中心になっていますし、横浜と多分連携をしているのかなというふうに思いますので、あらゆる美術館とこれから、短い時間ですけれども、情報を収集しながらやっていくことが大事かなというふうに思います。子どもたちが大きくなって、そのときの信濃美術館を、また同じように、動かしたりとか見返していくような、そういうような美術館になってほしいなというのを思っています。

教育普及はもう必修だと思いますので、必須だと思いますので、これを学校現場、子どもたちの現場も、声も聞いていただければありがたいかなと思っています。以上です。

○橋本館長

ありがとうございます。では小山委員、お願いいたします。

○小山委員

新しい美術館の具体像が少しずつ出てきているようで、非常に期待するものですがすけれども。

つい数日前に金沢21世紀美術館に行ってきました、北陸新幹線の延伸で、金沢自体が恐ろしい程に観光客の方でごった返しておりまして、21世紀美術館もその延長といいますか、すさまじい入館者でびっくりしたんですけれども。

たまたま館長さんのお話をお伺いするチャンスがあったんですが、あの美術館は現代美術に特化しているんですが、いろいろな環境との関係で、ディズニーランド等も含めてですよ、そういう公的な施設の中の年間の入場数のベストテンの中に入っているというお話で、現代アートというのは非常に難しいもので、一般性はないと言われて久しかったんですけれども。あちらは兼六園とエリアとしてつながっていたり、あといろいろな演出の仕方があります。入場料を払わなくても、外で現代アートが楽しめるということで非常に楽しい公園のようなしつらえにもなっていますので、そういった入館者、リピーターが多いということもあると思うんですね。

長野県信濃美術館は、善光寺と地続きというような形が可能であれば、あちらの21世紀美術館と同じように、兼六園と地続き的な、非常に共通するところもございますし、伝統的なものと非常に現代的なそのものとの調和というのは、アートの可能性だと思うんです。そういう点で、この庭園なんかを整備する場合に、例えば、ちょっと大げさ過ぎるんですけれども、ルーブル美術館の中にガラスのピラミットができて、当初、すごい違和感も言われたんですけれども、今はしっかりしているというようなことで、噴水みたいなこともちょっと書いてあるんですけれども、例えば水と現代アートの演出では、金沢21世紀美術館の中にはありますよね、プールの下をのぞいたら、そこには歩いている人々が見えるという有名な作品が。

そういった形で、公園をただの、いわゆる公園というよりもアートとうまく組み合わせた形でつくっていくことによって、入場者を誘導していく。それと善光寺との兼ね合いですよ。そういったものもやっぱり芸術的な観点で、一般的な庭園よりはひと味、ふた味も違うというような形のものに持っていただければいいんじゃないかなというふうに思いました。

あと、コレクションのそのコンセプトについてもちょっとこちらに書いてありましたけれども、これから予算的に、ピカソのようなものを買っていくというのはどう考えても不可能だと思いますので。やはり現代アートの方向でコレクションされていって、今、戸谷さんとか辰野

さんの話も出ていますけれども、長野県出身者ですばらしい現代アーティストもおりますので、ぜひそちら中心の方向で、ここでしか見られないすばらしい空間というものの常設展示やコレクションをつくっていただければというふうに思います。とりあえず、そういうところで。

○橋本館長

21世紀美術館、館長さんをよく知っていますけれども、設計ができる前、やっぱり紆余曲折があって、真ん中のほうがちょっと複雑だったんです、わかりやすくすっきりしたということは言っていました。それと、今、おっしゃったようにコレクションポリシーというものが、収蔵展をやるには、きちんとした考え方を持たないといけないなということは思います。

それからうらやましいのは、ニュースでも何でも、21世紀美術館が観光地と一緒に放送されますよね。うちは駅のパンフレットを見ても善光寺まで書いてあるんですが、うちの美術館は出ていないときがあるんですね。ですから、観光ビューローのほうにも、入れてくださいと、協力しますからということと言ったんですが、やはりそういった一体的な、地域と一体的な位置づけをこれからしないといけない。

それと小坂委員がおっしゃったように、そのためには善光寺ともっと関係を深めていかないといけないと思っています。小野委員、お願いいたします。

○小野委員

これは県のほうに、私、申し上げたいことなんですけれども、11日に検討委員会、整備検討委員会が開かれて、13日には情報アップしてくださったと思います、県のホームページで。ですから、今日の配付資料は、私、全て週末中に拝見いたしました熟読して、既に週末中に県のほうに私の意見、それから質問についてもう提示しております。

そしてここで申し上げたいのは、この資料を熟読いたしますと、検討委員会の、要するに何を言っているかということ、検討状況、それから提案というのは明らかに新美術館を想定しているということ。これは何かということ、建物及び館長を含めた新しい人材を求めています。はっきりここにそのように書かれていると私は読み取りました。そしてこの端々を見ておりますと、それが明確に示唆されていると理解しております。

それで、なぜかというところも詳しくはちょっとあまり言う時間が長くなるんですが、まずちょっと1点、11,000平方メートル、今の3倍以上ということは、この建物を建てるということは、建物がある限りにおいて、それだけの学芸の人数を確保することができるという予算的な、やっぱりある一定の将来的な見積りというんですか、それをきちっとなさっていないければならないというふうに思います。ということはどういうことかということ、もう建物の面積が決まれば、学芸の、必要な学芸の人数というのはいくら大体、もうプロであれば、もう検討委員会の先生方はおわかりでこれをお示しになられていると思います。

そしてコレクションの方針、コレクションについて部会でお話になられたというふうにここに報告書がありますけれども、コレクションの方針を決めるということはどういうことかということ、学芸の専門性が規定されてくるということ。全く違う専門の学芸を連れて来て、コレクション方針と違う専門の学芸を連れてくるということはないわけです。というのは、やはり私たち研究者として、自分の研究している作家の作品は見れば、真作かどうか、大体ひと目でわかります。筆づかいとか、もう作品の息づかいというのがわかりますので、やはりその新しい作品を買ってどんどんコレクションを意欲的にして、ちゃんとした美術館にしたいとおっしゃるのであれば、それだけの学芸が必要ということになります。

ということは、ここに来年度からのスケジュールが示されておりますけれども、希望といたしましては、このハード面ですね。善光寺との一体化、公園をどう利用するかという、そういうハード面の専門的な委員、それから、館長を初め学芸課長を人選していき、そして新しく必

要な学芸の人数というものを示しながら人事基準をつくって、きちんとした学芸の体制を整えていくと、この準備をする別の委員会、そしてこの2つの委員会が時よりきちんと合同の会議を開きながら新しい美術館、ここに新美術館とはっきり書いてありますが、新美術館の準備を進めていくべきかと思えます。

この点について、来年度きちんと予算をおとりになられているのかどうかということが、ちょっと私、心配だなと思っております。今まで何年間かこちらの協議委員を務めさせていただきまして、毎回、その学芸員の質イコール展覧会の質にもかかわっているんだということで、毎回意見が出る中で、やはり自分たちの改善点を見出すことができないということは大きな問題であります。このことと検討委員会の意見を見てみると、やはり検討委員の先生方はきちんとその状況を踏まえていらっしゃるというふうに、大変心強く思いました。新美術館に向けてぜひ、もう本当にこれをやると決めたのであれば、覚悟を決めて、予算がかかることですが、しっかり進んでいけるというふうに、私、これを見て思いました。

○橋本館長

館長も含めてというのはもう既に言っているんです。だから、今、始まったことではなくて、常にこの構想が始まる、私が新しい美術館をつくるというときに、私自ら言っているんですね。

ですから、あとは、一番肝心なのはここが指定管理のもとでの組織なんです。今はその枠内でやっているという非常に難しい状況がある。ということは、小野委員がおっしゃったように、新しい美術館をつくるときは、その制度、指定管理も含めてです。全て根本から考えないと予算要求はできないということでしょう。

○小野委員

そうです。お言葉ですけれども、それはもう前の委員会で私、申し上げて、指定管理のそもそも制度のもとにやるということがどうですかということは全国的に問題になっています、ということで、もう既に申し上げたことはこの場では申し上げませんし、特にこれは、私が申し上げたことが、どちらかという県に向かって申し上げていることですので、これは館長の諮問委員会であるということはわかりますけれども、そうであれば、やはりきちんともう少し、今まで申し上げた意見というのを真摯に聞かれて、改善をされたほうがよかったです。

○橋本館長

申しわけありませんが、一言、それだけは言っておきます。今まで協議会はたくさんやってきました。松本委員のときからも改築の意見は言っております。そのことを踏まえて、私が着任したときから今のようなことは県に申し上げてあります。これははっきり言っておきます。

今、急にこれが浮上したのではなくて、蓄積の中で県がはっきりと今回出したというふうにご理解していただければと思います。

○阿部文化政策課長

ありがとうございます。今、小野委員から県にもご意見いただきました。

当然、美術館をつくる時には、ハード・ソフト、両方一緒に考えなければいけないと考えております。検討経過の中でも先ほどご説明したように、当初は検討委員会の皆さんに全部まとめてご議論いただきたいとお話ししましたが、それは物理的に難しいという中で、どちらかという、ハード的な、施設のほうを先に専門的に進めていただいています。今、お話がありました、人というのは大事になってきて、学芸員、館長も含めて、あるいは管理運営体制、指定管理がそのままいいかということも含めて、これは県のほうがしっかり勉強するべきだという意見をたくさんいただきまして、今並行して検討させていただいております。

ですから、今の現状はどうかということの一つでございますが、それも踏まえた上で、新しい美術館をつくる際にはソフト・ハード両面から、それに見合った体制もつくらなければいけないということを十分認識しておりますし、作業部会の報告の中にも記載させていただいております。常勤の学芸員を十分に雇用すべきだとか、学芸員の充実が必要で今の体制では新美術館は回りませんよというご指摘もいただいておりますから、もちろんそういう認識のもとで、今、進めているということでご理解いただきたいと思っております。

そんな意味では、館長さんの立場と県の立場、指定管理等を受けていただけている中でありますけれども、十分に意見交換しながら進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○草薙委員

ちょっとよろしいですか、学芸員、人員の問題ですけれども、その学芸員の人数を増やしたいと、それ、ではできるかどうかという問題なんですけれども。まず、ここは長野市ですよ、東京じゃないですよ。最近、新幹線がありますからあれかもしれませんが、やはり地方都市というのはなかなかそういう人たちは集まらない。むしろ地方の人も東京で何かあるとそっちのほうに行ってしまう。そういった意味でもなかなか人を集めにくい。

それから学芸員の質の問題があるんですよ。学芸員は試験があるともう何十人もやってきて、本当に何か優秀な人が来たんじゃないかなと思うんですけれども、いざその人が来ると、ピントはずれの人が非常に多いんです。

ですから、私は試験だけをやるのではなくて、前々からアルバイトみたいにして雇っていて、その中からよさそうな人に試験を受けさせる。そうするほうが絶対いいんじゃないかと思うんですけれども。

とにかく、この信濃美術館が大きくなったので学芸員を集めます、試験を受けてくださいと行って来た人にはあまり期待しないほうがいいと思いますよ。もうそれは別にこの問題だけではない、全てです。本当におかしい人が学芸員にはいっぱいいますから、はい。

○橋本館長

ありがとうございます。この点についてもかなり前から考えて、また県にもお話してあります。それから西澤委員が、元校長でしたけれども、教員も最近正式採用は抑えているんですね。やはりまず非常勤で入れて、そして適正かどうかを見ている。

やはり今ご指摘のとおり、簡単に面接をやって成績がよければ、頭がよければこれでいいというとり方をすると大変な問題になる。それからやはりチームワークですね。これも草薙先生がおっしゃっているとおり、やはり一人でやるのもいいけれども、やはり全体のチームワーク、専門性とともなチームワークが必要だということをご指摘いただいております。そういう方をやはり選ぶには大変なことだなということも感じております。

○草薙委員

チームワークは大切ですが、学芸員は中々そうでもない。要するに上の人が館長とかそういう人が彼らをきちんと評価しつつ、うまく統率しなければいけない。

○橋本館長

そうですね、おっしゃるとおりです。まさにそういう雰囲気づくりも含めて。

○草薙委員

それから、優秀な学芸員が余っているはずはないです。例えば中堅ぐらいの人がほしいと思

っても、今は親の面倒をみななければいけないので家を離れられないとか・・・。なかなか満足
のいく人が集まらないということは、覚悟の上でされるといいと思います。

○橋本館長

私もまだ5年しかやっておりませんが、そのことは痛切に感じております。

ですから、簡単に質のいい学芸員をとるか、新しい館長をとっても、これ並大抵のことでは
ない、そこを選考し確定するには、だからこそ小野委員は早目にやっってくださいというご意見
だと思いますけれども、まさにおっしゃるとおりだと思います。ありがとうございます。石川
委員、お願いします。

○石川委員

信濃美術館整備はもう長年の懸案で、ここまで動いてきたということにうれしく思っており
ます。長野市とのいろいろな協議も、一時難しいと聞いていたんですが、円満に動き出したよ
うでよかったと思っています。

善光寺のほうも東庭園は、先ほども皆さんから出たように普段は暗くて、弓道場へ行く人が
少しいるぐらいで、観光客があそこに滞留するような感じではないんですね。手づくりやクラ
フトのびんずる市というのを月一回あそこで開催しているのですが、テントが何十と張られて
賑わいが出ると、観光客の方はかなり流れていらっしゃるんです。ですから東庭園をどうい
う形に整備していくか、デザインを含めまして、大きなポイントだと思います。

美術館、城山公園との一体感を含めまして、大胆に善光寺からつながりをつけて、人が流れ
るデザインをぜひ実現していただきたいと思います。善光寺も難しい部分があると思いますが、
お互いにとってメリットがある空間になっていけばいいなと思っています。

先ほど小山委員からも出ましたけれども、私も小山さんと一緒に、金沢で会議があって行っ
ておりました。21世紀美術館も含めまして、今の金沢の人の入り方は少し異常かとは思いますが、
今、美術館に年間170万人入っているというんですね。新しい信濃美術館は単なる観光施設
みたいなことをもちろん目的にしようということではないですけども、あの21世紀美術館の
いろいろないい点は学ぶべきだと思います。無料で、誰でもが市民がフラッと行ったり、観光
客がどんなものだろうとのぞいてみてちょっと体験できたりする、無料で入れる部分が4分の
1から3分の1ぐらいありますが、そういう空間は欲しいですね。

導入として城山公園にもアートの要素を配して、もう少し体験型というか、アートとの出
会いのある公園にさせていただいて、ここを一体的にアートの、長野市の中の空間にしてい
ていただきたいと思っています。

できれば、本当は善光寺東庭園の辺に善光寺資料館もつくっていただきたいと思いま
す。同時整備は無理かもしれませんが、大本願と大勧進に今、別々に資料館があって、かつそれは古
い展示のまま続いています。それと忠霊殿にも資料館があります。その3つを、もちろん所有
先も違うので難しいのかもしれませんが、まとめていただきたいと思えます。善光寺信仰とい
うのは非常にわかりにくい信仰でもありますので、ビジュアル的にも理解できるような資料館
が望まれます。人の流れとしても、長野の地域の歴史や文化性と新しい美術館とが結びついて
いく、そういう展開が本当は望ましいのではと思っています。

教育普及の中に、子どもたちが常に行けるようなスペースとか、そういうものもぜひ考
えてほしいと思っていますし、資料室が調査研究というだけでなく、一般の人にもぜひ開かれ
たものにしてほしいと、そんなふうに思っています。

それからファサードについてはもう皆さんから意見が出たんで安心いたしましたけれども、
建築の業界的な政治的配慮も私はあるような気がしますので、残さないという流れになってよ
かったと思っています。

○橋本館長

たくさんにありがとうございます。キッズ造形フェスタは10数年前から公園でやっていますよね。

県のほうにお願いですが、公園の噴水のことがちょっと触れていなかったのも、今の現状と、それから善光寺の東庭園のほうとの関連もお願いいたします。

○阿部県民文化参事兼文化政策課長

たくさんのご意見、ありがとうございました。いただいたご意見を含めて全体的にお話させていただきます。

最初に、噴水の話も出ましたが、実は作業部会にも善光寺の若麻績さんも出ていただいておりまして、子どもころの噴水と違って、今は、子どももいなくて、遊べないような状態になっているというお話があって、ただ長野市もこだわりがございまして、長野市の水道ができて100周年だそうです。戸隠から初めて水を引いてきた記念ということであの噴水がつけられたというお話がございました。

そのことは大事なんですけれども、今、あの形の噴水で残すかどうかということについてはこれから検討しますというようなお話をいただいておりまして、先ほどからもお話が出てきましたけれども、親水的にしたりとか、水を大切にするというようなことも考えたいというふうに思っております。

それから、金沢21世紀美術館の関係もたくさんいただきました。私どもも行ってまいりまして、普通の日なのに夏休みのように子どもがいたり、プールにもたくさん子どもがいました。入館者数も一つの目安かとは思いますが、金沢21世紀美術館の場合は、ご案内のように、公園に見えた方も全部もうカウントしているという、そういう考え方でなさっているんですよね。そして入場料を払わない方もいてもよいという考えがございまして、今度の新しい美術館に関してもそういった形のご意見もいただいております。すぐに美術館に入らなくても、子どもたちと一緒に来ている中で、遊んでいるうちに入っていくというようなこともよいのではないかとご意見もいただいております。

それからファサードは、この講堂も関連してきますが、一部の建築関係の皆さんからも、専門的なところから、林昌二さんの昭和の作品として残せないかというようなお話もいただいて、我々も気づかないところがあるのはいけないということで、いろいろな関係の方にもご意見を伺ったところですが、結論として、やはりそういった貴重なものを残したいという気持ちがあるんですけれども、ただ、それを建築物として残すことが必要ではなくて、それが残って、また新しい美術館の機能として使われるのであればよいのですが、そうでなければ、そこまでこだわることはないというようなご意見もいただいております。

ですから、そんなことを含めて、先ほど小坂委員からも写真や設計図を残せばというようなお話がございましたから、そういう形があるのか、あるいはこれからの設計者の中で何かよい方法があれば、そんなことも任せていきたいということを考えております。

それから、善光寺の関係については皆さんからお言葉をいただいておりまして、今日も寺務総長がお見えになっておりますから、そんなことで、できましたら長野市も含めて三者が一緒になる中で、歩調を合わせてよりよいものになるように検討を進めさせていただければと思っております。

あと草薙委員からも、当初、設計者の関係のご意見もいただいて、我々も非常にそれが重要と思っております。いろいろな設計者の選定の手法、もう少ししっかり勉強しなさいということもいただいております。それもございまして、もう一つは、私どももほかの県の美術館に行かせていただいたときに、学芸員から実はというお話で、入り口がガラス張りです

けれども、大事な廊下が狭かったり、展示室が非常に使い勝手が悪いということで、後からどうすることもできないというお話がございまして、本当に設計段階から館長や学芸員に入っていただくべきだということは、非常に強い言葉でいただいてまいりました。

そんなことを含めまして、やはり一般の住宅もそうですが、そこで住んでいただく方、使っただけの方の意見を聞かなければいけないということが大事だと思っておりますから、そんな意味で、学芸員の人数も含めてですが、早期に方向を出しまして、設計の早い段階から関係する皆さんにも加わっていただけるようになればよいなということで、今、検討しているところでございます。

○草薙委員

そこでメンテナンスが大変なんです。でき上がったのはいいんですけども、もうやたら広々したところで暖冷房にすごいお金がかかる。結局、だから何かとめてしまって、冬行くと寒くて、夏行くと暑いみたいになってしまう。

ですから、やっぱりその建築家というのはどうしてもやはり夢のような建物をつくりたがるんだと思いますけれども、でき上がった後のメンテナンスに、長野県にお金を出せるくらいのメンテナンスでないとだめだということをきちんと最初から釘を指しておくほうがいいと思いますよ。

○橋本館長

もう現状でも感じております。メンテナンスの、ええ、本当に大変な・・・

○草薙委員

美術館は24時間空調ですから、普通と違って、それだけでもお金がかかります。

○橋本館長

そうですね、ありがとうございます。小野委員。

○小野委員

先ほど石川先生のほうから、善光寺のすばらしいコレクションも資料室もということで、私が内容を申し上げるわけにはいきませんが、ある研究チームが、一緒に私もいたしまして、善光寺のほうでお持ちのもので新発見がございました。これ3月末にも発表があると思うんですけども、その研究者側のほうから。そういたしますと、やはりこちらのコレクションとその内容とかかわってきますけれども、やはりちゃんと連動したもの、善光寺のそのことを利用することばかり考えるのではなくて、きちんと共同で研究資料、善光寺のコレクション、お持ちのもの、それからこちらの持っているものというものをつなぎ合わせてきちんと研究できる、やはり範囲の学芸員の方がいらっしゃることも望ましいことかと思えます。

こちらのコレクション方針だけ決めてそれを打ち出していこうとすると、ひとりよがりになって、また善光寺との、地続きであるにもかかわらず、内容は全然違うんじゃないかという、そういうことにならないように、その意味、善光寺のお隣にあることの意味、意義をきちんと検討し、検証していける学芸というのが非常に望ましいかなというふうに、今、石川先生のお話を伺って思いました。

○橋本館長

ありがとうございます。それから石川委員から出された図書、これも閲覧できるようにということは申し上げてあります。

それから、私、草薙委員の平塚美術館へ8月にお伺いしたときがありましたよね。あのときに、私、驚いたというか感動したのは、子どもたちが夏休みの宿題で、あのブースごとに分かれて、いろいろ調べるコーナーがありましたよね。そこで子どもたちが一生懸命使っているんです。それを見て、やはり夏休みなら夏休み、春休みなら春休みに子どもたちがそういう図書館を活用できる、そういうオープンなものにしていきたいなという願いはありますね。

○草薙委員

とにかく教育普及が、これからの美術館の中心になってくると思います。もうゼロ歳児から私のところはやっていますけれども。

そうすると、ゼロ歳児には、別にお絵かきを教えるわけでも何でもないんですけれども、でも、それでも幼児の鑑賞講座もしていますけれども、これはちゃんと鑑賞しているんですよ、子どもたちが。

ですから、いろいろな可能性がありますので、教育普及はスタッフも増やさないとけませんし、今度、新しくなったらばそういったようなことも大いに考えていただきたい。今は展覧会のほうが強いかもしれませんが、そのうち展覧会と教育普及は美術館の中で半々になると思っています。

○橋本館長

ゼロ歳からの報告書は読ませていただきました。さすが草薙委員の平塚美術館だなと、それで保護者、お母さんが抱っこしながら絵を見て、メモして、そして鑑賞活動している。やはりできないんじゃないかと、できるんだという、やっぱりそういうことが必要ではないかと強く感じております。ありがとうございます。

どうしてもという委員がございましたらお願いいたします。

それでは、25分、時間になりましたので、一応、これをもちまして、今の議題は終わります。

4 報告・その他

○橋本館長

それでは（4）の報告・その他に進みたいと思いますが、事務局では何かございますでしょうか、ありませんか。

以上で次第の内容は終了しましたが、その他全体でございますでしょうか、よろしいですか、県のほう、事業団のほうもよろしいでしょうか。

5 閉 会

○橋本館長

では特にございませんので、議事については以上をもちまして終わりとさせていただきます。

なお、せっかくの機会ですので、もうごらんになったと思いますけれども、「描かれた女たち」と東山魁夷館「馬車よ、ゆっくり走れ」、ごらんになっていただきたくお願いして、今回の協議会を終了させていただきます。

本当に長時間ありがとうございました。